

西光寺だより

第七号 平成二十三年三月一日発行

春の訪れを感じる弥生の月となりました。お天気の良い日は、陽だまりが身も心も暖かくしてくれます。そのぬくもりは、まるで幼い頃の母の胸の中に抱かれていたようにも感じます。

仏さまのお慈悲はよく母子の關係に例えられますが、いかなる時も、陽だまりのようなあなたたかな眼差しでわたくしたちを見守ってください。ついでにそんなお声が聞こえてきそうです。

さて、西光寺においては来月（四月三日）の法要にむけて準備を進める最後の月となります。四月、始まりの季節に法要させていただけることに喜びつつ、皆様方のご尽力を賜りますこと深く感謝いたしております。

◆三月・四月の行事◆

三月各週日曜：六日・十三日・二十日・二十七日

宗祖讚仰作法練習会

四月三日（日）親鸞聖人七百五十回大遠忌法要ならびに

住職継職奉告法要

●今月のことば●

せつしゆふしや
「摂取不捨」

じつぼうみじん
十方微塵世界の

念仏の衆生をみそなはし

摂取してすてざれば

阿弥陀となづけたてまつる

（浄土真宗聖典571ページ）

（現代語訳）塵の数ほどもある無数の世界の中で、念仏している数かぎらない衆生をごらんになっていて、彼らのすべてを収めとり捨てられることがない。それゆえ阿弥陀仏、すなわち「一切衆生を妨害されることなく収めとりたもうみ仏」と名づけたてまつる。

阿弥陀さまは「わたしはここにいますよ、安心してください。どんなことがあっても見捨てません」と呼びかけてくださっているのです。「摂取不捨」とてもありがたいお言葉ですね。



◆先月の報告◆

① 「宗祖讃仰作法」練習会

二月二十七日午後二時より西光寺本堂にて宗祖讃仰作法の練習会が行われました。はじめに住職の説明があり、その後みなでお手本のお勤めを聞きながら練習いたしました。宗祖讃仰作法は七百五十回大遠忌のために新たに定められた作法（お経）です。皆さま馴染みのあるフシとは違うので、少し難しいかと思いましたが、参加された皆様は熱心に練習しておられました。

今回は前半を中心に勉強いたしました。来月は後半を中心に進めさせていただきま。今回参加できなかった皆様もぜひお越しください。

② 総代会・役員会

二月十九日、法要にむけての予算について、総代四人で総代会が開催されました。そして、二十六日に総代・役員・仏教婦人会の方々が集まられ、役員会が取り行われました。役員の間割、各役割についての説明、法要行事の手伝い依頼、二月末より毎週日曜日練習会参加について、三月の役員会の開催日、今後の予定などを皆で話し合い、意見し、審議いたしました。

今回、皆様のご協力により予想以上のご懇志が集まりました事、この場を借りて厚く厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。そして各家々に出向いて頂いた総代・役員の方々、本当にありがとうございました。

♪お知らせ♪

「茨木東組 親鸞聖人七百五十回大遠忌法要団体参拝」について

日時：平成二十三年 九月十五日（木）午後二時三十分より
場所：京都西本願寺

この度五十年に一度の法要である親鸞聖人七百五十回大遠忌法要が京都西本願寺にて四月より来年一月までおとまりになります。そのため全国より多くの門信徒が参拝になります。組内それぞれのお寺で募集しておりますが、西光寺では約四十名の参拝枠がございますので、参拝希望の方はお早目にお申出下さい。

🍵あとがき🍵

二月に入ってから、来る四月三日の法要にむけて多くの皆様にご協力をいただいております。

わたくし共も日に日に忙しさを感じるなかで、いよいよ近づいてきたのだなと実感しております。そんな中でも総代様はじめ役員様、仏教婦人会の皆様、講員の皆様、西光寺門信徒の皆様方には本当にご尽力いただきありがとうございます。そのお気持ちを力に変えて、法要を無事に成功できるよう努めてまいります。三月は準備などで慌ただしくなりますが、どうぞ宜しくお願い申し上げます。 合掌

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一七七一

電話 〇七二一六二二一四七九四

FAX 〇七二一六二二一九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>